

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第43回『「逆境における訓練」～『扇の要』～』

新型コロナ 緊急事態宣言が延長となった。 筆者も、自宅で、読書する時間もさらに増えた。 さりげなく、ヨセフ（創世記）、ヨブ（ヨブ記）、ヨナ（ヨナ書）、復習した。 まさに、「逆境における訓練」を感じる日々である。「楽しみ vs 苦しみ」、「活発 vs 不活発」の時間の学びである。 また、「起こった事 vs 働いて益」の体験の時でもある。 まさに「すべてのことを 働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」（ローマ8章28節）である。

筆者は、大学生の『がん病理学』、また 小学生の『がん教育』の授業で、『悠々とした病理学』として、「がんも 身のうち、正常細胞は 使命を自覚して任務を確実に果たす。 自己制御と犠牲の上に成り立つ。 がんは 真の目標を見失った細胞集団。 がんにもう一度役割使命を返すと おとなしくなる。 これが がんの良性化、リハビリテーション。 元気な時の自分が 最も最高と思わないことである。」と語る。 そして、筆者が、アメリカ留学時代、「遺伝性がんの父：Knudson（1922 -- 2016）に学んだ『扇の要』から『がん(人生)は開いた扇の様である』のスライドを 何時も示す（添付）。 また、「アルプスの少女ハイジの 現代的意義」を質問する。 アルプスの少女ハイジをつくったのは ヨハンナ・シュピル（1827 -- 1901）。 ヨハンナが こよなく敬愛した作家は ゲーテ（1749 -- 1832）。 ゲーテは「涙と共に パンを食べたものでなければ 人生の味は分からない。」と語っていると！ 「あなたが善を行うと、利己的な目的でそれをしたと いわれるでしょう。気にすることなくやり遂げなさい。」& 「目的を達しようとするとき、じゃま立てする人に出会うでしょう。気にすることなくやり遂げなさい。」（マザー・テレサ；1910 -- 1997）が、教育の心得ではなからうか！

がん(人生)は開いた扇の様である

「禍の起こるは起こる時に起こるにあらず由って来るところ遠し」 ゆえに予防、治療が出来る

臨床がん

初期病変

がん化の引き金

起始遺伝子変異同定

起始遺伝子は扇の要である。
がん化の起始細胞の進展には境遇が大切である。

